

大阪府香里団地の場合

奈良女大家政

北口 照美

目的 良好な居住地の環境のめやすとして「緑豊かな町」などの表現がされる。本研究の目的は、この緑の拠点となる公園緑地を、居住者は日常生活の中でどのように利用し、評価し、何が求められているのかを知るものである。これは、今後の公園緑地計画のあり方について住民意識から検討し、計画の示唆を得ようとするものである。

調査方法 対象は大阪府の香里団地。昭和33年建設の住宅公団初期の計画的な大規模団地である。方法はアンケート留置法による。回収数は独立住宅 119票、集合住宅 156票。調査時期は昭和60年11月。

結果 1)居住者は公園緑地の数、質(内容)、管理については不満は少なく良いと感じている。 2)公園への訪問頻度は独立住宅居住者の方が、集合住宅居住者よりかなり高い。 3)各々の公園は独自の雰囲気を持っており、居住者は目的によって公園を使い分けている。たとえば、桜公園に花見に行く、中央公園では球技をするというように。 4)香里団地の緑化景観に特色を与えているけやき並木は、多くの住民に団地内でのもっとも好きな場所としてあげられている。 5)樹木の落葉や管理についての不満は他の町に比べて少ない。これは既存地形を保護し、公園や緑地に活用したという計画が住民たちから良い評価を得た結果と考えられる。 6)道や公園緑地も新しい素材を持ち込むことだけでなく樹木という自然の素材を生かすことにより、より良い空間が創造できることが示唆された。